

外国語科

1 外国語科の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

外国語科の目標は、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することであり、次の三つの事項を念頭において指導する必要がある。

① 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせる。

外国語で他者とコミュニケーションを行うには、社会や世界との関わりの中で事象を捉えたり、外国語やその背景にある文化を理解するなどして、相手に十分配慮したりすること。また、適切な言語材料を活用し、思考・判断して情報を整理するとともに、自分の考えなどを形成、再構築することの重要性が示されている。

② 聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、資質・能力を育成する。

高学年においては、中学年の外国語活動の導入を受けて、新たに外国語科を導入し、五つの領域の言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる三つの資質・能力を相互に関連させて育成することが重要である。

③ 外国語教育において育成を目指す三つの資質・能力

(1)は、「何を理解しているか、何ができるか」という「知識及び技能」の習得に関わる目標として示されている。ここでは、外国語の言語材料について、「日本語と外国語の違いに気付き、これらの知識を理解する」という「知識」の面と、その知識を、「実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能」を身に付けるという「技能」の面とで目標が示されている。

(2)は、「理解していること・できることをどう使うか」という「思考力、判断力、表現力等」の育成に関わる目標として示されている。学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動で活用したりする学習過程全体を通じて、三つの資質・能力が相互に関係し合いながら育成されるようにすることが大切である。

(3)は、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」という「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関わる目標として示されている。言語活動が、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」とを相互に関連づけて繰り返されることで、児童に自信が生まれ主体的に学習に取り組む態度が一層向上する。このような過程を通して「学びに向かう力、人間性等」が育成される。児童が興味をもって取り組むことができる言語活動を易しいものから段階的に取り入れたり、自己表現活動の工夫をしたりするなど、さまざまな手立てを通じて児童の主体的に学習に取り組む態度の育成を目指した指導をすることが大切である。

2 指導要領改訂の趣旨及び要点

(1) 高学年の外国語科導入の趣旨

これまでの外国語教育の成果と課題を踏まえ、小学校中学年から外国語活動を導入し、音声面を中心とした活動を通じて外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めた上で、高学年から発達の段階に応じて段階的に文字を「読むこと」、「書くこと」を加えて総合的・系統的に扱う教科学習を行うとともに、中学校への接続を図る。

(2) 改訂の要点

各学校段階の学びの接続と「外国語を使って何ができるようになるか」の明確化の観点から目標を設定している。

今回の改訂では、中学年に外国語活動を導入し、三つの資質・能力の下で、英語の目標として「聞くこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」の三つの音声面を中心とした領域を設定し、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成が図られている。その上で、高学年において「読むこと」、「書くこと」を加えた教科として外国語科を導入し、五つの領域の言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することとしている。また、より弾力的な指導ができるよう、2学年を通した目標となっている。

3 英語の目標及び内容等

(1) 英語の目標（外国語科の目標を踏まえて設定）

英語では、以下に示す五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、「学びに向かう力、人間性等」を育成することを目標としている。

① 聞くこと

- ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。
- イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。
- ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。

② 読むこと

- ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。
- イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

③ 話すこと[やり取り]

- ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。
- イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。
- ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問したり答えたりして、伝え合うことができるようにする。

④ 話すこと[発表]

- ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
- イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
- ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

⑤ 書くこと

ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。

イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

(2) 英語の内容

① 英語の特徴や決まりに関する事項〔知識及び技能〕

高学年の外国語科の英語においては、言語材料は、「音声」、「文字及び符号」、「語、連語及び慣用表現」及び「文及び文構造」の四つから構成されている。これらの言語材料のうち、五つの領域別の目標を達成するのに適切なものを選択して理解させるとともに、言語材料を言語活動と併せて指導することで、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けさせる。

② 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項〔思考力、判断力、表現力等〕

「思考力、判断力、表現力等」の育成には、具体的な課題を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、既得の知識や経験と、聞き取ったり読み取ったりした情報を整理しながら自分の考えなどを形成することが必要である。こうして形成された考えなどを表現することを通して、以下の事項を身に付けられるよう指導する。

ア 「聞くこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」の領域に関するもの

身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。

イ 「読むこと」、「書くこと」の領域に関するもの

身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりすること。

③ 言語活動及び言語の働きに関する事項

「思考力、判断力、表現力等」を育成するために、「知識及び技能」として身に付けるべき言語材料を活用して、五つの領域ごとに示された具体的な言語活動を通して指導することや、「言語の働きに関する事項」で示された言語の使用場面や言語の働きを適切に取り上げて指導が行われることが必要である。

4 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画作成の配慮事項

- ① 第3学年及び第4学年並びに中学校及び高等学校における指導との接続に留意する。
- ② 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
- ③ 学年ごとの目標を適切に定め、2学年間を通じて外国語科の目標の実現を図る。
- ④ 言語活動を行う際は、言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行う。また、中学年で扱った学習内容を繰り返し指導し定着を図る。
- ⑤ 必要に応じて短時間学習を取り入れることにより指導の効果を高めるよう工夫する。
- ⑥ 言語活動で扱う題材は、児童の興味・関心に合ったものとし、他教科等で児童が学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をする。
- ⑦ 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行う。
- ⑧ 学級担任の教師又は外国語を担当する教師が指導計画を作成し、授業の実施に当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行う。

(2) 内容の取扱い

- ① 言語材料については、平易なものから難しいものへと段階的に指導する。また、児童の発達段階に応じて、聞いたり読んだりして意味を理解できるように指導すべき事項と、話したり書いたりして表現できるように指導すべき事項とがあることに留意する。
- ② 音声指導に当たっては、日本語との違いに留意しながら指導する。また、音声と文字とを関連付けて指導する。
- ③ 文や文構造の指導に当たっては、(ア)日本語と英語との語順等の違いや、関連のある文や文構造のまとまりを認識できるようにすること、(イ)文法の用語や用法の指導に偏ることがないように配慮して、言語活動と関連付けて指導することに留意する。
- ④ 個々の児童の特性に応じてペア・ワーク、グループ・ワークなどの学習形態について適宜工夫する。
- ⑤ 児童の実態や教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、指導の効率化や言語活動の充実を図るようにする。
- ⑥ 言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより、児童が学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるようにする。

5 指導の留意事項

(1) 中学年の外国語活動，中学校外国語科とのつながり

小学校中学年 外国語活動 目標	小学校高学年 外国語科 目標	中学校 外国語科目目標
外国語によるコミュニケーションによる見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションによる見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションによる見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	(1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付く、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
(2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
(3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

高学年の外国語科の指導に当たっては、中学年の外国語活動で「聞くこと」、「話すこと」を中心に慣れ親しんできたことを踏まえ、段階的に「読むこと」、「書くこと」を加えて中学校への接続を図ることに留意する。

(2) 知多地方教育計画案小学校外国語科の留意点

① 単元の構成

Unit ごとに単元を構成し、「Starting Out」、「Your Turn」、「Enjoy Communication」、「Over the Horizon」の四つのパートを通して、段階的に自分の考えや気持ちなどを伝え合う基礎的な力を養えるようにする。複数の Unit のまとめである「Check Your Steps」は、独立した単元として取り扱う。各学年の総時間数は5年生70時間、6年生70時間である。

② 単元の目標

(1)は、知識及び技能、(2)は、思考力、判断力、表現力等、(3)は学びに向かう力、人間性等を表す。

③ 標準的な展開例

各時間の主な学習活動と活動に対しての留意事項などを記載する。単元を構成する上での留意事項がある場合は備考欄に示す。

④ 評価

ア 「留意事項など」には、その時間に、どのような言語活動を通して、どの資質・能力を評価するかを示す。三つの資質・能力のうち、(1)は、「知識・技能」、(2)は、「思考・判断・表現」、(3)は、「主体的に学習に取り組む態度」と表記する。

イ 単元の中心となる活動では、3観点全てを見取ることが望ましいが、実行可能性を考慮し、本計画案では「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の2観点について評価することとする。

⑤ その他具体的事項

ア 1時間の基本的な流れは、①挨拶・ウォームアップ→②基本表現の練習や基本表現を用いた活動→③振り返り・挨拶とする。なお、挨拶は本文中では省略してある。

イ 詳細な学習活動、留意事項及び評価規準は指導案例に記述してあるので、本文と併せて参照するとよい。

6 評価の観点の趣旨

観 点	観 点 の 趣 旨
知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気づき、これらの知識を理解している。・読むこと、書くことに慣れ親しんでいる。・外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none">・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、音声で十分慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。